

琉球大学学術リポジトリ

たのしくすごすファッション（洋服） —かたち
色 材質などで—

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渡口, 文子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20986

たのしくすごすファッション（洋服）

かたち 色 材質などで

暑さもなかば過ぎた感じがしますが、まだまだこちらでは「十月バサー」とか言う言葉がある様に秋の中旬頃までの暑さは身にこたえる様です。その頃には朝夕のしのぎ良さはやはり中秋を肌を感じさせますが、その残暑の頃をすごすのにどんなファッションがあるかを考えて見たいと思います。

夏の強い陽ざしも少しはゆるくなった頃とはいえ日中は真夏の様な陽が目跳到る日々には、まだまだノースリーブが欲しい所でしょう。ノースリーブも去る7月の上旬、下旬と二回にわたり新聞の投書欄にその良否が記載されておりましたが、皆様はいかがでしょう。ノースリーブも今では四季を通して着られ、夏だけの衣服の形ではなく、どんな場所にも広範囲に利用されるようになっております。例えばイブニングドレスから、カクテルドレス、街着、家庭着、スポーツ着遊び着などの服がある。袖なしは涼しい上に解放感や季節感もあり又何よりも軽快さがあるからでしょうか。皆から愛されておりますから余り他人に不快さを与えない様な着方が必要でしょう。又どんなドレスを着るときにも言えますが、特にノースリーブの時にはファンデーションに気をつけなければなりません。それはよくスリッパ、ブラジアーの肩ひもが見えたりすることがありますからかならずひもどめを作る様にします。それに袖ぐりのカットも自分の腕に合ったものを着る様にしたいものです。よくファンデーション、ガーマンツと言う言葉を聞きます。意味は基礎下着、補正下着洋服を着るための基本となるものと云うことです。ここではファンデーションについてはまたにしましてその一部のスリッパについて知っておきたいことを申し上げます。

スリッパ

ドレスが薄くなればなる程体の線が表にひびいてきますので、特にすける生地の場合には下着そのものもすけて見えますので気をつけましょう。下着の材質はいろいろ数がありますが、

夏の下着としては純綿のクレープでしょう。それは肌ざわりは大変さわやかで肌からもはなれますし、汗をかいてもまつわりつくこともありませんし、吸汗量も大変すぐれておりますが、街着の下着としてはすべりがないのでよほどすべりのよいドレスの材質以外は不向です。適当なすべりのあるテロン綿混紡の方がよいでしょう。

色のついたランジュリー

スリッパの色物はよく考えないと品が悪くなったりします。冬の場合はドレスの色に合わせていろいろムードを楽しむことも出来ますが、夏はどうしてもすけると云う条件が伴いますので、反対色とか濃い色とかはさけるべきでしょう。ドレスの色に合せた場合だけがいいと許されそうですが、着るときは同系統のドレスより一段と薄い色を選ぶ様にします。ドレスと重ねても色が感じられない様にするのが上品です。しその方が白を着るよりずっとおしやれな着方です。すけるドレスの時は下着は色物でもはっきりした色に見えないような着方がエチケットです。

色系刺繍のあるスリッパ

白いブラウスの下にスリッパの色系刺繍がほのかにすけて見えるのを見かけますが色系刺繍のスリッパは夏の下着ではありません。白いブラウスやドレスの下にはかならず白いスリッパが好ましいことです。

白いスリッパ

白いスリッパの中にも種々のレース物がありますが、プレーンなドレスやフリルやレースの多いブラウスの下には余り巾広のレースのものより軽くカットしたものか巾狭のレース等が上品です。

ドレスの形や材質

ドレスの形もいろいろでどれがよいと申し上げることは出来ませんが、この残暑を楽しむむ

レスには気を配って着る様にしましょう。シフトドレスにボレロ又は軽い上着等のスタイルはいかがでしょう。日中の暑さには上着なしでも仕事が出来ますし、親しい方への訪問には上着を失礼してぬぐことも出来、暑さを調節することが出来ます。又ボレロや上着等をセーターやカーディガンに変えてスポーティな街着にビーズ入り刺繍入りのカーディガン、ストール等と組合せますと華やかな場所にも役立つ事が出来たり、若い方々ですと光るアクセサリーかスカーフのサッシュでも楽しむことが出来て広範囲に利用出来ます。

材質は

やはり初秋の衣料として木綿はこの上もない材料でしょう。こちらでは質のよい木綿は見つかりませんが、木綿は夏といはず冬でも利用度の高い衣料です。木綿と同じように四季を通して愛されているのがウールです。一昔前まではウールといえば秋から春までの衣料でしたが今では真夏でもウールが出回って愛用されています。これからの季節としては肌ざわりもよいので喜ばれましょう。ウール同様に喜ばれるには絹があります。絹は東洋的な美しさ優美さが愛されていますが、汗の多い季節には糸の組織や絹の持つ艶が悪くなりますので注意しなくてはなりません。これからの季節はおしゃれ着として最高でしょうが若い方には無地のファイユですつきりした袖なしドレスを作しましょう。

シックな絹緋のプリント地などはお嬢さん向ではありませんそれよりはコットンサテンの方がよいでしょう。通勤着にはスパンレーヨンは光沢もあり、ボリュームもあつて生地独特の風合があり、色と柄も豊富ですから夏の生地として最適ですので広く利用してみましょう。他にシャークスキンは着て見て厚苦しいようですがデラックスで大変都会風な感じのする生地です。アセテートプリント等もファンシーなジャケットにするのも晩夏から初秋にかけての衣服です。

おしゃれを楽しむには

おしゃれを人一倍楽しみたい方々は人より先に色、材質を上手に着こなすことです。材質や

色で充分季節を楽しむことが出来ます。夏の名残りととどめる風情はやはり白でしょう。ピンと張りのある白い布地を少しあしらうのも目にしみてとても印象的でしょうし、縞や格子物も白に、紺、茶と数々に組合されたトーンカラー絹や木綿の長袖ブラウス、厚手木綿、ウール等の細そりとした袖ト丈の短いプリントジャケット等は秋のドレスも早目に白い布や手編レース、グロリヤリボン等をあしらいますと楽しいおしゃれが出来ますからおためし下さい。

流行色

生地を買う時によく流行色という言葉の聞いたり口にしたりしますが、流行色の主な物には3~7年周期で繰返えされるといわれます。色の中でも暗色系は寒色系に比べてやゝ周期が短かく青味の赤が流行する時期は3年位といわれます。紫味の青がもう一度回って来るまでには7年かゝるといことです。色の中でも日本人の肌の補色に相当するものはブルー系と肌色と同系統のベージュ系が多く利用されている様ですし、一番日本人の肌色とマッチして使い易い色は伝統的な藍とさらしの麻色の組合せといわれています。チャーコールグレーは地味の中に品位があり又汚れも目立たないことは忙しい通勤者の服としては理想的な色と考えられます。何時の時代にも街に多く出回る色は青系統を第一に赤系、茶系、灰色、白、黒で黄系、緑系は流行色として出回っても利用される範囲は少い様ですが、もう似合う似合わないというよりもいろんな数の色を自分なりに着こなしている様です。これからの衣生活は街着だけでなくホームドレス、作業着のエプロンにすらそれぞれの目的によつて材質や柄が選ばれておりますから季節によつては沖繩の麻の緋やゆかたの大柄、タオル地などの利用で目的にかなった装いと共にファンデーションの活用も充分心していきたいと思ひます。

(渡口文子)